

2. 事業の目的と概要	
(1) 上位目標	住民間の意思疎通が促進され、村落開発により住民の生活環境が改善される。
(2) 事業の必要性（背景）	ビハール州は、人口 9300 万人の大農業地帯だが、平均年収が 200 米ドル（16000 円～20000 円）に満たない貧困地帯であり、最も開発の遅れた地域の一つである。加えて 2008 年 8 月にモンスーンにより、インド東部ビハール州の 17 県、1800 ヶ村が大洪水に見舞われ、その傷跡が未だに残されている。ICA は 2008 年 10 月、洪水の被害が最もひどかったマデープラ郡を中心に初動調査を実施、その後 2010 年 1 月に再度現地住民のニーズ調査を行った際に、現地住民より、住民間の意思疎通促進のためのローカーストの土地におけるコミュニティセンター建設及び人材育成、技術研修の強い要望が寄せられた。マデープラ郡はカースト制度が残る地域であるが、地域の発展のためにはカーストを超えた対話を促すことが不可欠であるとして、3 年前に女性自助グループ、農民グループ、青年グループ、幼児教育者等、カーストを超えて構成された村落開発委員会が設立された。本委員会を中心に、これまでもコミュニティ会議を行ってきており、現在は開催場所が確保できないため、ハイカーストの自宅中庭で行っている状況にあるが、最も低いカースト階層の住民は会議の場に入ることができないことから、参加を見合わせざるを得ず、住民間の意思疎通促進を阻んでいる。このような状況を踏まえ、マデープラ郡の村落開発を進めていくため、階層に関わらず地域住民誰もが利用できるコミュニティセンターの建設は不可欠であることから、ローカースト、ハイカースト、村の最高機関が、ローカーストの土地に同センターを建設することに合意している。
(3) 事業内容	● <u>コミュニティセンター建設</u> 3 ヶ村（Korlahi 村、Jamuha 村、Ranipatti 村） 村落開発委員会、現地パートナー団体と協議の上、マデープラ郡の中でも特に必要性の高い 3 ヶ村を選定し、コミュニティセンター建設を行う。管理・運営は当団体が指導しながら、村落開発委員会、現地パートナー団体が行う。 ● <u>コミュニティ・セミナーの開催</u> 3 ヶ村（Korlahi 村、Jamuha 村、Ranipatti 村） コミュニティセンター建設地において、村落開発をソフト面でも支援するため、カーストを超えた連帯意識を育てること、住民の収入の向上を目的とした以下のセミナーを行う。各セミナー及びトレーニングの参加者は住民への希望調査及び村落開発委員会の審査によって選定する。 ・ <u>モビリゼーションセミナー</u> プロジェクトを開始するにあたり、住民、村落開発委員、現地パートナー団体、マデープラ郡関係者、当団体などの関係者が一堂に会するセミナーを開催する。具体的には、①事業の目的の明確化、②コミュニティの基本的データの収集、③活動の確認、④事業のフレームワークの把握等を行い、現状確認及び関係者間の事業に対する理解を深める。（1 ヶ村あたり 50 人） ・ <u>コミュニティ開発セミナー</u> 地域の問題点の把握、解決策の提案、提案に沿った実施計画の策定のためのセミナーを開催する。地域住民の協力体制作りにも取り組む。 （1 ヶ村あたり 60 人）

	・ <u>リーダーシップセミナー</u> 問題解決力、実践行動能力を養い、地域の問題点改善のための実施計画を推進していけるリーダー（ファシリテーター）の育成を行う。①焦点をしぼった会話手法、②合意形成ワークショップ、③行動計画ワークショップなど、報告書作成やマネジメント能力、会議運営に必要なコミュニケーションスキルの向上を目指す。（1村あたり50人） ・ <u>農業研修（水耕栽培）</u> 同地域においては、主に小麦、マスタード、トウモロコシ、バナナ、マンゴー等が生産されているが、現地調査の結果、水耕栽培への関心が寄せられているので、水耕栽培の技術を指導する。（1村あたり50人） <u>水耕栽培の特徴</u> ①天候に左右されないために、野菜の計画生産、安定生産が可能になる。 ②生産場所を選ばず、非農地、栽培不適地でも農業生産が可能である。 ③無農薬、病気による被害のない安全、安心な野菜生産が可能である。 ● <u>能力向上トレーニング及び啓蒙活動</u> 10ヶ村（Korlahi 村、Jamuha 村、Kurannuma(Bhavan Toli) 村、Gopalpura 村、Kohawra 村、Sukhasan 村、Rohta 村、Haribola 村、Barahkurva 村、Ranipatti 村） ・ <u>女性グループのためのマイクロファイナンス研修</u> 竹細工他、鶏の飼育、家畜飼育のためのローン貸し出しトレーニングを行う。（1ヶ村あたり75人） ・ <u>農業トレーニング</u> 既存の農業技術向上のためのトレーニングを行う。（1ヶ村あたり75人） ・ <u>青少年のための技術訓練</u> 学校に行けなかった若者達に大工、洋裁、刺繍等の自活のための技術指導を行う。（1ヶ村あたり25人） ・ <u>地域災害防止トレーニング</u> マデープラ郡は小さな洪水が頻発する所であり、洪水の被害を最小限に押さえるための訓練をする。連絡方法、避難所、停滞品などの情報提供と実践訓練を行う。（1ヶ村あたり60人） ・ <u>先生を対象とした子供のケアについてのトレーニング</u> マデープラでは3歳～6歳までの幼児 500 名に対して、村で幼児教育を行っており、その先生に対して子供のケアについて指導する。（1ヶ村あたり30人） ・ <u>演劇による啓蒙活動</u> 選別された村の青年達が健康、教育、環境、子供の人権などに関するソーシャルドラマを通して啓蒙活動を行う。（1ヶ村あたり10人）
(4) 持続発展性	コミュニティセンターの管理運営は、現地パートナー団体であるHCDIと、各村にある村落開発委員（VDC）が行う。施設の所有権や維持管理についてはMOUを締結する。VDCは 村の開発に関する企画、実施、モニタリングを行う。センターの活動が持続的に行われるように、HCDIとVDCは協力して、ローカル政府からの支援金、結婚式、学習会、イベントの使用料等を積み立てて、センター運営費に充てる。 各セミナー及びトレーニングでは、マニュアルを作成し各村に設置すること及び参加者による伝達によって、参加者以外の住民への技術・知識の伝達を図る。

(5) 期待される成果と成果を測る指標	・コミュニティセンターが完成することにより、カースト間を超えたコミュニティ会議の開催が可能となる。 指標・これまでハイカーストの住民中心であったコミュニティ会議へのローカーストの住民の会議参加者数。 ・モビリゼーションセミナーを実施することにより、地域住民の参画及び関係者間の理解が深まる。 指標・65%以上がセミナーの内容を理解し、関係者間の連帯意識を実感する。 ・コミュニティ開発セミナーを実施することにより、地域の問題点が改善し、地域住民の協力体制が整う。 指標・70%以上がセミナーの内容を理解する。 セミナー実施後に、実際に問題の改善及び協力体制整備が確認される。 ・リーダーシップセミナーにより、地域の問題点改善のための実施計画を推進していけるリーダーが育成される。 指標 ・75%以上がセミナーの内容を理解する。 ・参加者がコミュニティ会議においてリーダーとしての役割を果たす。 ・農業研修で農薬を使わない、基礎的な水耕栽培の手法が理解でき、栽培が実践される。 指標・75%が研修内容を理解し、参加者が実際に栽培を始める。 ・能力向上トレーニングを通し、収入が向上する。また、トレーニング及び啓蒙活動を通し、防災、健康、教育環境、子供の人権等に関する理解度が向上する。 指標 ・75%以上がトレーニング及び啓蒙活動の内容を理解する。 ・マイクロファイナンス研修、農業トレーニング、技術訓練については、参加者の収入向上が確認される。 ・コミュニティセンター建設3ヶ村において、村落開発委員会、女性の収入向上グループ、青年グループ、農民グループ、幼児教育者の活動が行われる。 指標・コミュニティセンターの利用者数
----------------------------	--